

年 組 名前：

国立科学博物館は24日、甲府市の民家で発見された国内では報告事例がない「モトスマリモ」の由来を調べる調査で、本栖湖などで昨年採取した藻類からは遺伝子は発見できなかったと明らかにした。今秋にも再度検体を採取し、調査する方針。

モトスマリモは、甲府市の民家で3年前、淡水魚を飼育する水槽から見つかっていた。博物館植物研究部の辻彰洋研究主幹らが昨年12月、本栖湖などで地元ダイバーとともに貝や石などに付着している藻類を採取。遺伝子の解析を進めていた。

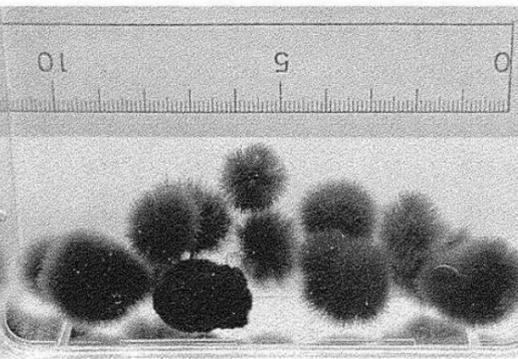
採取した藻類からモトスマリモの遺伝子が発見されれば、甲府で発見されたモトスマリモが本栖湖由来だという有力な証拠になる。これまで自然界では確認されておらず、辻研究主幹は「発見されなかったことは残念だが、モトスマリモが大量にいるとは予想していない。調査を続けたい」と話している。

（国立科学博物館提供）

（武田寛明）

モトスマリモ遺伝子 検体から発見できず

本栖湖調査



(2023年5月25日付 山梨日日新聞19面)

問1 甲府市の民家で発見された「モトスマリモ」の調査結果が、公表されました。

調査は、何をどのようにして調査しましたか。また、その結果を教えてください。

- ・なにを：
- ・どのように：
- ・結果：

問2 モトスマリモは、いつ、どこで見つかりましたか。

- ・いつ：
- ・どこで：

問3 辻研究主幹は、調査結果を踏まえ、今後、どのようにしたいと話していますか。

.....
